

# こめ お米ができるまで

わたし たちが 食べているおいしいお米は、農家の人がたくさんの手間をかけて作っています。お米づくりの流れを見てみましょう。

## 4月 苗づくり

よい種籾を選んでから苗まで育て、田んぼに植える準備をします。

## 5月 田起し

田んぼを耕します。土を掘り起こして細かくし、稲が育ちやすい土をつくります。田んぼに水を張った後、土をかき混ぜて平らにします。



## 6月 田植え

水を張った田んぼにお米の苗を植えていきます。田植えの時期は地域によって違います。農家にとって一年で一番忙しい時期です。

## 7月・8月 田んぼの管理

稲がすくすくと育つように、雑草や害虫から守ったり、田んぼの水の量を調節したりします。天候や気温によってお米の大きさが違ってきます。

普通の栽培方法では、雑草や害虫から守るために農薬を使いますが、農薬を使わない

「無農薬栽培」や、農薬と化学肥料を使わない環境にもやさしい栽培方法もあります。



## 9月 稲刈り・出荷

秋になって田んぼが一面黄金色になると、いよいよ収穫です。田んぼの水を抜いて土を乾かしたら、コンバインという機械で稲を刈り取り、穂先の籾だけを取って乾燥させます。籾から籾殻を取り除いて玄米にした後、袋に詰めて出荷します。





# 田んぼの生き物が減っている？！

人間が田んぼや山、池などを生活のために手入れしながら暮らしている環境を「里山」といいます。田んぼでは、カエルやタガメなどたくさんの種類の生き物が暮らしています。水の中や葉っぱの陰など、それぞれの生き物にとって住みやすい環境があるからです。



しかし、今の日本では農業や林業をする人が少なくなり、よく管理されている里山が減っています。里山が減ることで、そこで暮らす生き物の種類も数も少なくなってきました。そこで、田んぼや山、池などの手入れをして、里山を復活させようとする取り組みが全国各地で行われています。

## 調べてみよう！

兵庫県豊岡市では、「コウノトリ育む農法」という稲作技術の普及に取り組んでいるよ。どんな農法かな？

